

声の響きが重なる面白さを生かして音楽を作りましょう

子どもたちは、音のつなげ方や重ね方を工夫して、グループでのオリジナルのボイスアンサンブルづくりに挑戦します。口で唱えたり合わせたりしながら考えていく場面では、教科書のデジタルコンテンツも活用しました。グループごとで決めた「お掃除」「お祭り」「動物たち」「工事現場」といったテーマに沿ってイメージを作り上げていきます。できあがった演奏を動画にして共有しさまざまな意見をもらしながらブラッシュアップしていました。写真⑤・⑥は学校CIO研修会での授業のようです。

※宮澤先生の授業についての感想はNO79に掲載します。



①グループのテーマに沿って自分のパートのリズムを考えます。スクールタクトで共有しているので他のパートも同時に見ることができます。



②「動物の鳴き声」をテーマにしたグループでは鳴き声を検索し、「うえ・うえ」「グゥウ・グゥウ」などの言葉の工夫をしていました。



③グループで全体のリズムの重なり方を検討しています。口で唱えたり合わせたりしながら、声の高さや、全体の響きなどに注目しています。



④どのようなアンサンブルになっているかを確かめるために録画します。このグループでは「画面収録」の機能を使って楽譜に重ねて演奏が聞けるように工夫を行なっています。できた動画はスクールタクトで全員に共有しました。



⑤スクールタクトで共有された演奏を何度も聴きました。友だちの作品を聴き、いいなと思ったところを自分たちの演奏に取り入れています。先生からの助言も参考にしながら更にいい演奏をしていきます。



⑥「他のグループの工夫で、自分たちもやってみたい、工夫したいところがあったら、さらに良いものにしてみましょう。」「できたら録音してアップしてみましょう。」と、先生から。より良い演奏ができるように取り組む子どもたちには笑顔が溢れています。

本授業は学校CIO研修会のために、講師の東原先生の助言を受つつ富県小学校の先生方によって設計・実施されたもので、本記載内容は、授業者である宮澤ミチル先生の実践をもとに推進センターが編集したものです。

探究的な学び

先進的な学び

個別最適な学び
協働的な学び
自立的な学び

子どもと共に
未来を創る教員

実践事例 NO.78

発行：伊那市教育委員会学校教育課

編集：ICT活用教育推進センター

デジタル教科書と他のアプリケーションを組み合わせて よりクリエイティブな活動を展開しよう！

QRコードにアクセスすることで簡単に利用できるデジタルコンテンツが、本年度の小学校教科書からさらに充実してきました。

先生方は子どもの学習意欲を高めたり、理解を深めるために有効活用しています。

今回取り上げた小学校6年の音楽の「ボイスアンサンブル」の授業では、子どもたちが音符を並べてリズムを考えます。考えたリズムが自動的に再生されることによって、その子が実際の演奏をするための手助けとなっています。リズムをとることが苦手な子にとっては、有効な手立てとなっています。

リズムをとれるようになった子どもたちが、さらにテーマを決めてアンサンブルを創作しようと願った時、他のアプリケーションを組み合わせるとよりクリエイティブな活動となっています。

出来上がったアンサンブルを共有し、聞き合います。クラスの仲間からコメントをもらい更にブラッシュアップすることができます。

子どもたちが使ったアプリケーションや機能



【カメラ】ビデオ撮影の定番です。撮影後すぐにトリミングして必要なシーンを切り出してアップしました。



【ボイスメモ】音の大きさが波形で出るので音の大きさが意識でき、大きな声で演奏をしていました。



【画面収録】楽譜を表示しながら演奏ができるので動画を見る側にとってわかりやすいものとなります。



【スクールタクト】動画を共有することができます。他にNumbersなども一覧で共有できるので便利。



宮澤先生は、4人でアンサンブルを創作できるようにスクールタクトで教材を配布し共有しました。



マイクに音が入るよう意識しながら、演奏を録音します。子どもたちはビデオ、ボイスメモ、画面収録など使いやすいアプリケーションを使っています。



演奏の動画ファイルをスクールタクトのコメント欄に貼り付け共有します。

伊那市では「学校教育情報化ビジョン2024」をもとに、iPadを導入して「ICT活用教育」を推進しています。